

トシリズマブ患者サポートプログラムパルスオキシメータ活用の実践

○大西 亜子¹・大西 誠²・田中 由紀¹・寺久保 尚史¹・河上 智子¹・荻山 真奈¹・
河野 洋子¹

¹道後温泉病院リウマチセンター 看護部

²道後温泉病院リウマチセンター 内科

背景・目的：トシリズマブ（以下TCZ）はIL-6シグナルを阻害する作用機序により炎症を抑制する効果がある一方で、CRP陰性化により感染症の発見が遅れる事がある。TCZ患者サポートプログラム「ビリーブ」にパルスオキシメータ（以下SPO2）が採用された事による有用性について検討した。方法：調査期間2016年4月～9月

当院でTCZを使用している患者全員に看護師主導でビリーブを案内し、登録患者に対するアンケートを実施した。

結果：TCZ使用患者62/83例（75%）がビリーブ登録。アンケート回収率45/62例（73%）。アンケート結果は、SPO2の説明を理解できた：96%、SPO2の実際の使用率：91%。SPO2を使用した患者の評価は、「使いやすかった」、「SPO2を測り異常が出ないとホッとする」、「感染症に注意することがわかった」であった。SPO2を必要としない患者21例は高齢者やTCZ長期使用患者であった。

結論：SPO2を紹介することで、患者自身に感染症への注意喚起ができ、血圧計・体温計と同様にSPO2を使用する患者主体の感染症マネジメントとなると考える。

利益相反：無